

大学の世界展開力強化事業（平成26年度採択）中間評価結果表

大 学 名	立命館大学
整理番号	i-4
事 業 名	産学国際協働 PBL による南アジアの異文化・多様性社会の中で活躍できる高度理工系人材の育成

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">A</div>	これまでの取り組みを継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) 本事業は、立命館大学理工系3学部3学科（理工学部理工学研究科、情報理工学部情報理工学研究科、生命科学部生命科学研究科）が、インドの理工系大学との学生交流を發展させ、異文化・多様性社会であるインドと相互理解を深め、産学国際協働 PBL（Problem/Project Based Learning）を通じて真に国際的視野を持った高度理工系人材の育成を図るものである。 本事業の中心となるインド工科大学ハイデラバード校との産学国際協働 PBL プログラムやシンビオシス国際大学との IT 研修プログラムをはじめ、派遣・受入の各種プログラムが計画に沿って進められており、日印参加学生双方のコミュニケーション能力の向上、異文化理解の深化につながっていることは評価できる。また、中間評価までの交流学生数についてもおおむね目標を達成しており一定の成果を上げている。 事業の運営にあたっては、3学部共同で推進委員会を設置・開催し、また事務局の一員として本事業に専念する専門職員、教育プログラムの開発・実践や学生の派遣・受入等を職務とする教員等を配置している。さらに、外部評価委員会の設置も行われていることから、本事業を推進するための体制整備も順調に進められている。 引き続き交流学生数についての目標達成に努めるとともに、交流プログラムの質の保証や内容の充実など、実施に遅れがみられる点について更なる取組の強化を図り、事業目的を達成することが期待される。特に、単位の相互認定やジョイント・ディグリーなど相手大学との協議が必要な取組については、改めて日印両国及び相手大学における認識と制度の確認及び課題の整理を行い今後の対応の方向性を慎重に検討する必要がある。また、インド工科大学ハイデラバード校との PBL の進め方について、事前学習や英語学習、危機管理を含めたオリエンテーションの充実、テーマの設定プロセスの改善、関係者のスキルアップや運用の工夫、企業との連携、PBL の成果の評価についての仕組み作り等、更なる改善が必要である。	